

たけら

TAKUSUI
No. 747

1

January, 2019

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



漁港を照らす朝日 (香美町)

平成31年 年始のご挨拶 JF兵庫漁連 通常総会開催

《今月の海上安全標語》～ 明けましておめでとうございます！～
県下JF・系統団体では、今年も海上安全講習会を開催していきます。
今年こそ海難事故ゼロの年となりますように……

大漁と 併せて願う ^{ゼロ}海難無 では、今年も安全操業で!



兵庫の新たな歴史を築く

兵庫県知事

井戸敏三

新年あけましておめでとうござい
す。

四月には平成が終わり、五月から新元
号の新たな時代が幕を開けます。さら
に、九月のラグビーワールドカップ世界
大会を皮切りに二〇二一年のワールドマ
スターズゲームズ二〇二一関西に続く
ゴルフデンスポーツイヤーズがはじまり
ます。二〇二五年大阪万博の開催も決定
しました。今後、日本、関西、兵庫に世
界の関心が集まることでしょう。

兵庫は、神戸港の開港以来、海外の文
化や産業を取り入れ日本を先導してきま
した。それだけに、この機を捉え、世界
の成長を呼び込み、人口減少と高齢化が
同時に進む中でも、将来にわたり活力に
満ちた地域としなければなりません。

五国の多様性を活かし、「兵庫二〇三
〇年の展望」が描く自分らしい生活や働
き方ができる「すこやか兵庫」の実現を
めざして、新時代のふるさと兵庫を創り
ます。

第一は、安全安心で豊かな暮らしの実
現。頻発する自然災害や来るべき大規模
災害への備えを強化します。また、子育

て環境の充実や医療介護体制の確保な
ど、安心して暮らせる基盤をつくりま
す。

第二は、未来へ続く地域活力の創出。
次世代産業の創出や新事業展開の促進、
農林水産業の基幹産業化を進めます。ま
た、地域と世界で活躍できる人材の育成
に加え、誰もが生涯活躍できるように、学
び直しや多様な働き方を支援します。

第三は、国内外との交流・環流の拡大。
インバウンド対策など内外からの誘客促
進や五国の持つ資源を生かしたツーリス
ム人口の拡大、県外県民「ひょうごe
県民」の登録など人口の環流促進を図り
ます。高速道路の整備や空港、港湾の有
効利用など交流の基盤となる交通インフ
ラを充実します。

いつの時代も、ふるさとの将来に夢や
希望を持ち、果敢に挑む人々が兵庫の明
日を切り拓いてきました。兵庫の新たな
歴史を築くための第一歩を共に踏み出し
ていきましょう。

兵庫県一五〇年新スタート

五国を活かしすこやかめざす

CONTENTS

No.747 January, 2019

- 2 新年のご挨拶
- 7 第43回 JF兵庫漁連通常総会
- 8 兵庫県水産振興議員連盟とJF組合長懇談会
第1回 乾のり入礼会
- 9 平成30年度「ひょうご海の子作品展」作文部門
- 10 兵庫JCC通信
- 11 旬に想う
大輪田塾だより
- 12 平成30年度「ひょうご海の子作品展」絵画部門



表紙の言葉

「漁港を照らす朝日」(香美町)

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願
いいたします。

表紙の画像は、元日にJF但馬香住漁港を照らす朝日(初
日の出)の様子です。但馬の元日は時雨や曇りが多く、灰
色の空のイメージが強いですが、季節風も無い爽やかな青
空の年明けとなりました。

今年亥年。天皇陛下の退位と皇太子さまの新天皇即
位となり平成も終わりとなる節目の年でもあります。兵
庫の水産業界にとって「猪一亥年」(ちょーいいとし)に
なるよう願います。

新年のご挨拶



年頭のご挨拶



兵庫県漁業協同組合連合会
代表理事会長

田沼 政男

新年明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、県内JF組合員の皆様ならびにJFグループの皆様にご挨拶を申し上げます。

さて、昨年の12月に、70年ぶりの抜本改革となる改正漁業法が可決成立し、日本の水産業は大きな転機を迎えています。注目すべき点としては、将来にわたり持続可能な漁業を実現するための資源管理のあり方についての措置が盛り込まれたこと、漁業権については、優先順位を廃止する一方、漁場を有効活用している既存漁業者には優先的に免許されることが挙げられます。

これらの改革を、我々漁業者にとって明るい未来をもたらすものとするためには、これまで以上に資源管理や漁場環境整備に取り組むことはもちろん、漁村地域にとって何が必要かについて、しっかりと提案していく必要があります。

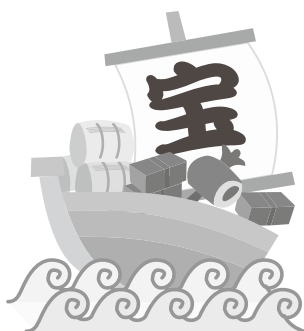
あります。

これに伴い、平成31年度の水産関係予算も3、200億円が準備され、改革の推進を後押ししてくれます。県漁連としても組織をあげて取り組んで参りますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

一方、「豊かで美しい海」の理念とその必要性を広く県民の皆様様にPRし、漁業者の豊かな海再生への取り組みの応援団となつていただくため、昨年より県当局と「ひょうご豊かな海発信プロジェクト協議会」を発足しました。昨年は兵庫県政150周年記念事業に関連して、イベントやシンポジウムを開催し、一般県民の皆様様に「豊かな海」という言葉の本当の意味を広くご理解いただきました。兵庫県下に豊かな海への関心がますます広がることで、豊かで美しい海を次世代につなげることができるよう、この重大な務めを果たして参ります。

また、第43期の本会事業におきましては、のり生産が順調に推移したことから、当初の計画を上回り、前年度に引き続き実績となり、会員の皆様に対して出資配当並びに事業分量配当を実施することができました。これは会員各位を始め、系統団体、関係各位の皆様のご支援、ご協力の賜物であり、改めて感謝申し上げます。第44期も引き続き、役員一同いっそう力を注いでいく所存です。

最後になりましたが、会員各位におかれましては、本年も、格別なるご理解・ご協力を賜りますとともに、県当局はじめ、関係諸団体のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。本県漁業が活気に溢れ、夢膨らむ縁起の良い年となりますよう皆さまのご繁栄とご健勝を祈念いたします。年頭のご挨拶とさせていただきます。





年頭のご挨拶

なごさ信用漁業協同組合連合会
兵庫県運営委員会委員長

中川 照央

新年あけましておめでとうございま
す。年頭にあたり、会員並びに組合員の皆
様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃より本会業務の運営に格別のご高
配をいただいておりますことにあらため
て厚く御礼申し上げます。

昨年を顧みますと、日本各地において
大規模な自然災害が多く発生した年であ
りましたが、本会の管轄地区である兵庫・
和歌山両県域におきましても、立て続け
に発生した台風の直撃が漁業用各種施設
に大きな被害をもたらし、とりわけ和歌
山県域においては直接的被害のみならず
台風以降海況変化に起因するとみられる
漁業生産の激減等甚大な影響を受けまし
た。

被害に遭われた皆様に、改めて心より
お見舞いを申し上げますとともに、一日
も早い復旧・復興に本会として全力で支
援をしてまいります。

最近の我が国経済はアベノミクス政策
により企業の稼ぐ力が高まり、企業収益
が最高となる中で、雇用・所得環境が改
善し、労働市場では人手不足が四半世紀
ぶりの高水準となっております。

しかしながら、国内外の金融市場は混
乱が続いており、このまま円高・株安が

続けば個人消費の停滞や
企業業績の悪化に繋がる
ことが懸念されるどころ
であり、我々系統金融機
関を含め地域金融機関に
おきましては、顧客数の
減少と資金需要の低迷が

経営基盤を揺るがす中、マイナス金利政
策の長期化が重なり収益の拡大が難しい
経営環境下にあります。

また、わが国漁業については、平成29
年に示された新たな水産基本政策に基づ



年頭のご挨拶

兵庫県漁業共済組合
組合長理事

川越 一男

新年あけましておめでとうございま
す。西暦2019年の年頭にあたり謹んで
新春のお慶びを申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、元号に
「内と外、地と天が、ともに『平らかに
成る』』という、願いが込められて早や
30年目の「節目の年」でありました。し
かしながら、深刻な被害をもたらせた大
阪北部地震や北海道胆振東部地震をはじ
め、広範囲で記録的な浸水被害や土砂崩
れが多数発生した豪雨災害、並びに大型
台風の襲来による関空の浸水や大規模停
電など、ライフラインに大きな影響をも
たらしたことは、改めて自然の猛威
を思い知らされた一年でもありました。

き、産業としての生産性向上と所得の増
大を目指して、各種施策が実施されてお
りますが、「漁業の成長産業化」を目指
し昨年末に国会を通過した法改正が今後
どのような影響を及ぼすのかを注視する
必要があります。

このような中、本会におきましては、
合併第2年度である、平成30年度を中期
経営計画に則り、作り上げたなごさ信漁
連のスタンダードをくまなく浸透してい
く期間と位置づけ、「愛される浜の金融
機関」として皆様に認識していただける

本県におきましても被災
された方々には心よりお
見舞いを申し上げますと
ともに、その「平成」に
幕が下りるといふ年を迎
えるにあたり、次の時代
が歴史的に意義深く、そ
して平和で平穏な日々となりますように
と願わずにはおられません。

一方で、本県の漁業は一昨年同様にノ
リ養殖業、沖合底曳網漁業及びベニズワ
イガニかご漁業では高相場に支えられて
良好な水揚金額となっております、カキ養殖
業は台風の影響による斃死があったもの
の、その後は比較的順調に成育しており、
今後とも堅調な生産が続く事が期待され
ています。船曳網漁業については、イワ
シ、イカナゴの回遊不振により漁獲量が
大きく減少しましたが、何とか高相場に
支えられて平年並み近くの水揚状況とな
りました。

なお、昨年12月に臨時国会で可決、成
立した「漁業法等の一部を改正する等の

様努力しているところであり、本年にお
いては、本会の存在意義を改めて自ら問
い直し、使命である漁業系統金融の安定
的な継続実施と漁業金融機能が発揮する
ことができる「新たなビジネスモデル」
の構築に鋭意取り組んでいくこととしてお
ります。

つきましては、本年も皆様のご支援・
ご協力を賜りますようお願い申し上げま
して、新年のご挨拶とさせていただきます。

法律」においては70年ぶりの抜本的改革
と称され、適切な資源管理と水産業の成
長産業化の両立の実現に向け、資源の持
続的利用を確保しながら水面を総合利用
し、漁業生産力の発展を目指すとの目的
が位置付けられました。今後、新たな漁
業法のもとで、「ぎよさい」と「積立ぶ
らす」は適切な資源管理等に取り組み
漁業者の経営安定を図るためのセーフ
ティーネットとしての機能強化を図ると
ともに、漁業収入安定対策事業の法制化
が進められていくことになるであろうと
思われます。今後も漁業経営安定対策及
び漁業に大きな影響をもたらす災害発生
への備えとして、また漁業生産力の発展
に不可欠な施策として本県においても役
職員一丸となつて、推進に取り組んで参
りますので、皆様方の絶大なご支援と
ご協力を切にお願いいたします。

最後になりましたが、本年の豊漁と漁
業操業の安全、並びに皆様方のご健勝と
ご多幸を心よりご祈念申し上げます。ご
挨拶といたします。



新しい年を迎えて

兵庫県農政環境部農林水産局
水産課長

平石 靖人

新年明けましておめでとうございます。皆様方には清々しく新年をお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。

昨年は、7月豪雨、相次ぎ襲来した大型台風や北海道胆振東部地震の影響により、国内の各産業が多大な被害を受けるなど暗い話題が多かった一方で、2025年の大阪万博開催が決定するなど、未来に向けた明るい話題も見られた1年でした。

そのような中、水産業界にとっては大きな転換の年であったと思います。70年ぶりとなる漁業権制度の抜本見直しを含む改正漁業法など一連の水産改革法が成立しました。しかし、まだその運用には不透明な部分もあることは否めません。今後も国の予算も含めた改革の動きを十分に把握し、皆様の不安を払拭できるような努めていきます。県内に目を向けますと、全国で初めて「豊かな海の実現」を目標に盛り込んだ新しい「播磨灘流域別下水道整備総合計画」が設定されました。「豊かな海の再生」を実現するための大

きな一歩です。

県といたしましては、

「豊かな海の再生と水産業・浜の活性化」を基本方向として、瀬戸内海環境保全特別措置法に掲げ

られた基本理念の実現とともに、水産資源の増殖・適正管理、海域特性に応じた漁業経営の強化、浜の活力向上に資する様々な施策を展開してまいりますので、今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。

また、2021年、第41回全国豊かな海づくり大会の本県開催が決定しまし



新年のご挨拶

兵庫県立農林水産技術総合センター
水産技術センター所長

堀

豊

新年あけましておめでとうございます。皆様には、清々しく新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は、大阪湾から紀伊水道、播磨灘まで広がった大規模な貝毒プラシクトンの発生、マダコやイカナゴ、シラス、底魚類の不漁、ノリの漁期終盤の色落ち等、貧栄養が原因のひとつと考えられる事象

た。2度目の開催は全国初となるこの大会を成功に導くため、昨年4月に漁協系統団体、市、県が一体となり設立した「ひょうご豊かな海発信プロジェクト協議会」が取組む豊かな海の普及啓発活動を継続・発展させ、豊かな海と漁業の重要性を兵庫から全国に発信していかねばなりません。

新たな年の始まりとともに、本県水産業が益々発展し、未来に向かって力強く前進されますこと、新しい年も平穏で安全な操業が続き、豊かな海の幸に恵まれますことを心より祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

がいたるところで発生しました。このような中、生産者の皆様のためまぬ研鑽、厳しい資源管理に取り組みご努力に対し、心から敬意を表するとともに、改めて自然を相手にした漁況予測やシミュレーション、水産資源の管理の難しさを実感しているところでは、

本年も様々な課題に取り組んでまいります。

瀬戸内海では、栄養塩と漁獲量との関係解明、貝毒対策、イカナゴ、シラスの漁況予測、近年の環境変化に対応した藻類、二枚貝類の養殖に加え、新たに導入する「閉鎖循環飼育システム」を用いた魚類養殖等についても調査研究・技術開発を推進します。また日本海でも、新たに設置する「漁具開発施設」を活用し、漁業調査船「たじま」による調査研究を進め、ズワイガニ等、重要魚種の漁況予測情報の発信、漁獲物の品質評価技術開発等に努めます。さらに、水産技術センター本館と漁業研修館の大規模修繕を行い、会議場空調の更新など、ご利用いただく皆様方のご不便の解消にも努めてまいります。

最後に、兵庫の海がより豊かなものとなり、生産者から消費者まで全ての人に恵みをもたらしてくれる1年でありたいと心より祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

当センターにおいては、「農林水産物のブランド化に直結した技術開発」と「食・自然環境の両面から県民の安全安心を支える技術開発」を重点項目として、



年頭のご挨拶

兵庫県農政環境部農林水産局
漁港課長

今井 猛

新年あけましておめでとうございます。皆様方には、清々しい新春を健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年、大阪北部地震、7月豪雨や度重なる台風などにより、例年以上に自然災害が頻発いたしました。幸い県下の漁港・海岸施設では大きな被害はありませんでしたが、水産業の基盤である漁港・漁村における安全・安心の確保に向けた取組の必要性が改めて認識されたところです。

兵庫県では、近い将来発生が懸念される南海トラフ地震・津波対策として、平成27年6月に策定した「津波防災インフラ整備計画」に基づき、県南部沿岸において被害を軽減する耐震・耐津波対策を推進することとしており、漁港関係では、重点整備地区に位置付けている沼島漁港の港口水門の整備に加え、防潮堤整備や陸揚岸壁の耐震化など、漁港・漁村の安全確保の取組を着実に進めております。さらに、日本海沿岸におきましても、想定される津波に対する対策を進める予定としております。

また、水産業の競争力強化のため、ノリ養殖業の収益性向上・競争力強化を図る大型ノリ自動化機などの施設導入や水産加工場などの共同利用

施設の建設など、国の補助事業を最大限活用し、支援に努めてまいります。

このほか、漁業生産活動を支える漁港施設の整備や漁港・海岸施設の老朽化対策、航路・泊地の維持対策などを計画的に進めてまいります。

今後とも、新しい時代のふるさと兵庫づくりの羅針盤である「兵庫2030年



新年のご挨拶

全国漁業協同組合連合会
代表理事会長

岸 宏

新年あけましておめでとうございます。全国の組合員並びにJFグループの皆様にご挨拶を申しあげます。

振り返りますれば昨年は、70年振りの漁業法改正を含め、わが国漁業の成長産業化に向けた本格的な改革の議論が行われた歴史に残る1年でした。

我が国漁業は、2013年から産出額が上昇に転じ、若い就業者が増える等、

の展望」が掲げる農水産業の基幹産業化に向けて、基盤整備を通じて取り組んでまいります。

本年も、昨年に引き続き、兵庫県の水産物を安定的かつ持続的に供給できるよう、より一層安全で活力ある漁港・漁村づくりに取り組んでまいりますので、今後とも皆様方のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後にりましたが、新しい年も安全な操業が続き、また、皆様方にとって実り多い年となりますよう祈念いたします。年頭のご挨拶とさせていただきます。

明るい兆しが見えております。そして我々JFグループは、6年前から「浜の活力再生プラン」の実践に努め、その成果が確実に出てきており、浜は活気を取り戻しつつあります。

こうした中、改革の議論は進められましたが、我々の最大の関心事である漁業権制度については、今後とも維持することが明確にされ、共同漁業権はこれまで通りJF・JF漁連以外には免許されないうこと、区画漁業権等は、漁業権を適切かつ有効に活用しているJFに対して優先して免許されること等が定められたところですので。

今後、我々はこの水産改革を自らの課題とし、不転の決意をもって、水産日本への復活に向け、必要な改革を大胆に進めていかなければなりません。

このため、昨年11月には全国漁民代表者集会を開催し、我が国水産業の輝かしい将来を築くため、浜の再生に果敢に取組むことを誓い、十分な財政的支援措置を含めた革新的な政策の確立を関係要路に強く要請したところです。その結果、昨年を大幅に上回る予算を勝ち取ることができました。ここに改めまして、会員並びに関係の皆様のご協力・ご支援に対しまして御礼申し上げます。

一方、現下の漁業環境は、不安定な燃油価格、外国船による違法操業問題、風評被害対策を含む復興支援など、依然として課題は山積しております。このようなか、本会は新年度から新たな5カ年の中期経営計画に取り組んで参ります。

また、水産改革が運用面において漁業者の理解を得られるよう対応していくほか、浜プランの取り組み支援、次世代を担う中核的漁業者の育成、産地市場統合等の流通構造改革、輸出振興を含めた水産物消費の拡大等に取り組み、浜の構造改革や所得向上に向けた漁業者の取組を支援して参る所存です。

最後になりますが、全国各浜で活躍の漁業者の皆様様の操業の安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。



3か年計画最終年度に向けて
 全国共済水産業協同組合連合会
 代表理事会長
川端 勲

明けましておめでとうございます。年頭にあたり、浜の皆様は謹んで新春のお慶びを申し上げます。常日頃より、JF役職員、関係者の皆様にはJF共済の普及推進活動に格別なご尽力を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

はじめに、昨年全国各地で猛威を振るった台風、豪雨、地震等の自然災害により被害に遭われた全国各地の漁業関係者および地域住民の皆様に対し、衷心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

さて、JF共済を取り巻く情勢は頻発する自然災害、漁業従事者の減少・高齢化、マイナスイタリ金の継続、主要魚種の漁獲量の減少、国際問題など課題が山積しております。

こうした厳しい環境の中、漁協系統では、運動方針「漁業の再生 水産日本の復活」を掲げ、浜プランの実行などによりその成果ができています。一方、国の水産基本計画では「日本漁業の成長産業化」をすすめようとしています。また「水産政策の改革」が進行しつつあり、日本の水産・漁業の変革のときを迎えています。

JF共済は協同組合運動に根ざしたJFの主要事業として、海に生き、浜に生活する組合員・地域住民の「暮らしの保障補償」に万全を期すことを通じて、美しい海と漁業を守り、豊かに安心して暮らすことのできる魅力ある漁村・地域づくりに貢献することをめざすという使命と役割があります。

このため、JF共済は平成29年度を初年度とするJF共済3か年計画「一人ひとりの笑顔のために：協同の原点」を運動名称として、「JFと組合員との絆を強化し、JF共済の輪の拡大」、「JF・JF共済連が一体となった共済推進体制を整備」、「JF支援態勢およびJF共済の健全性・信頼性の強化」、「元気で活力のある漁村・地域づくりを支援」の重点取組施策を展開しております。平成31年度は3か年計画の総仕上げの最終年度として推進本部を中心にJFと一体となり、全戸訪問を基調とする保障点検活動をしつかり実践して参ります。

特に、平成29年7月に改正した「くらし」と平成30年7月に改正した「チョコー」の周知徹底をはかり、保障(補償)の最新化を推進するとともに点検運動による漁家の保障等の見直しや法人向けの保障プランの推進展開等により、共済の輪の拡大をはかり、主幹種目チョコーの保有の減少に歯止めをかけ、継続的かつ安定的な事業基盤の確立に努めて参る所存です。

JF共済事業の支払余力(ソルベンシー・マージン)比率は1459.6%(29年度末)と健全性の基準を大きく超えておりますが、今後も一層の健全性・信頼性の確保に努め、組合員・地域住民の皆様の負託に心えて参りたいと存じますので、引き続きご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

JF兵庫漁連 第43回 通常総会 開催される

12月11日(火)、神戸市内のホテルにおいて、JF兵庫漁連(田沼政男会長・JF林崎)の第43回通常総会が、県政環境部農林水産局石井龍太郎局長をはじめ、多数のご来賓のご臨席のもと開催されました。



開会にあたり、田沼会長が「水産政策の改革が国会で決議され、我々漁業者は新たな資源管理に取り組んでいくと共に、漁協に免許されている漁業権をこれからも適切に活用していく必要がありますので、水産業振興のため、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いたします。」と挨拶し、続いて来賓として、石井局長から祝辞がありました。

第43期の事業実績は、ノ

り養殖が順調に推移したことからの、購買事業・販売事業のほとんどで計画を上回り、事業総取扱高281億8千6百万円、事業利益8千4百万円(計画対比1億3百万円増)、経常利益1億4千6百万円(計画対比9千7百万円増)となりました。任期満了に伴う役員選任も行われ、現役員全員の再任が決まり、事業報告など全議案原案通り承認されました。

(文：JF兵庫漁連)

兵庫県水産振興議員連盟とJF組合長懇談会



JFグループ兵庫県水産政策協議会（田沼政男会長）は兵庫県水産振興議員連盟（永田秀一会長）との共催により12月11日（火）、神戸市のラッセホールにおいて、『兵庫県水産振興議員連盟とJF組合長懇談会』を開催し、兵庫県井戸敏三知事、荒木一聡副知事をはじめ、JF組合長と県会議員、系統団体のほか、濱村進農林水産大臣政務官も出席し、約100名が参加しました。

この懇談会は、水産資源の減少並びに漁業後継者の減少、漁場環境の変化など漁業者だけでは解決できない課題が山積するなか、水産業の振興を図り、漁家経営安定の一助とすることを目的として毎年開催されています。

今年テーマを『水産政策の改革における関係法令の改正点について』として、はじめに「漁業権とは」と題して兵庫県 藤澤崇夫農政環境部長より、続いて「漁業法等の一部を改正する等の法律案の概要について」と題して水産庁 清水浩太郎水産経営課長より説明が行われました。引き続き、テーマⅡ『海コミ対策について』兵庫県 望月松寿漁港課副課長から話題提供が行われました。

その後、両テーマについて意見交換が行われ、特に「個別漁獲割当（I-Q）制度」「漁業権免許の優先順位の撤廃」「販売のプロの役員への登用」を中心に予定時間をオーバーするほど活発な意見が交わされました。

懇談会の終了後は、県議の方々とJF組合長との情報交換会が開催され、当日の講演テーマをはじめとして地域が抱える問題等について活発に意見や情報の交換がなされ、盛会裡のうちに閉会となりました。

第1回乾のり入札会を開催 宮内庁への献上ノリも決定！

本格的な冬の到来を感じさせる季節となり、全国各地ではノリの入札会（共販）が始まっています。全国有数のノリ生産量を誇る兵庫でも、JF兵庫漁連（田沼政男会長・JF林崎）が、臨時共販（12月11日）に続き、12月17日（月）には第1回共販をJF兵庫漁連のり流通センター（加古郡播磨町）で開催し、昨年より多いノリ入札商社44社の約100人が集まり、見本のノリを手にとりに品定めをするなど、共販会場は活気に包まれました。

この日挨拶に立ったJF兵庫漁連 田沼政男会長は「お陰さまで



第1回目の共販を開催することが出来ました。水温降下が鈍く、やや難しいスタートとなりましたが昨年同様、御贖願いただきました。」と話されました。

（第1回乾のり入札会：結果）

共 販 枚 数	2,774万枚
共 販 金 額	4億474万円
平 均 単 価	14円57銭
最 高 値	40円00銭

続いて、兵庫海苔入札指定商組合 松谷 晃理事長（松谷海苔(株)社長）は「今年は全国的にノリ生産はスロースタートとなっていますが、全国生産量の2割を占める兵庫ノリが無いとノリ業界は成り立たなくなる。高品質なノリの潤沢な生産を望んでいる。」と挨拶をされ、兵庫におけるノリの安定的な生産に期待を寄せられました。

今漁期の入札会は全15回（12月11日開催の臨時共販を含む）が予定されており、最終共販日は5月8日（水）となります。いよいよ始まったノリ養殖。今漁期の順調な生産と安全操業を祈念いたします。

また、本年度の宮内庁への献上ノリを決める審査会が、第1回共販同日にJF兵庫漁連のり流通セ



挨拶に立った田沼会長



松谷理事長

ンターで行われました。JF兵庫漁連の田沼会長ら審査員により、候補のノリを色・艶・味などの項目で評価した結果、東播地区のノリが選ばれました。このノリは、毎年漁連会長の手で宮内庁に献上しており、20日（木）、田沼会長により宮内庁に持参献上されました。また、今回は、同ノリを首相官邸へも持参しました。

平成30年度 「ひょうご海の子作品展」 作文部門 受賞者決定!!

JF兵庫漁連とJF兵庫女性連は、輝く未来を担う小中学生に、海を愛し、美しく豊かな海を守る事の大切さと漁業に親しむ心を育てもらうため、「ひょうご海の子作品」(絵画・作文)を県下の小中学生を対象に募集し、作文175点、絵画1,925点のご応募をいただきました。

12月5日に作文部門、10月19日に絵画部門の最終審査会を行い、受賞作品が決定いたしましたので、その一部をご紹介します。

(絵画部門は12ページに掲載しています)

【作文部門】

(敬称略)

賞名	学校名	学年	氏名	題名
兵庫県知事賞	淡路市立学習小学校	5	三木 善瑛	未来の大阪湾を守っていくために
兵庫県教育長賞	南あわじ市立湊小学校	5	坂田 桃子	大好きな淡路島の海
JF兵庫漁連会長賞	明石市立錦浦小学校	3	藤本 翔	地びぎあみを体けんして
	淡路市立学習小学校	5	高田 陽菜	豊かな海を守る
JF兵庫女性連会長賞	明石市立錦浦小学校	3	阪本 悠晴	地びぎあみのたいけん
	淡路市立北淡小学校	6	嵐 勇登	育波の海
JFなぎさ信漁連理事長賞	淡路市立学習小学校	5	豊田 翔大	きれいな海を
	明石市立野々池中学校	2	寺井優希菜	母から聞いた話
農林中央金庫大阪支店長賞	明石市立錦が丘小学校	1	横山 真那	おじいちゃんのおさしみ
	淡路市立学習小学校	6	坂東 優	安全できれいな海へ

※紙面の都合上、佳作は紹介しておりません。

- ・JF兵庫漁連HPで、兵庫県知事賞と兵庫県教育長賞の作文を掲載予定。
- ・2月下旬頃に、優秀作品を掲載した“ひょうご海の子作品集”を発刊予定です。

＜兵庫県知事賞＞

未来の大阪湾を守っていくために

淡路市立学習小学校 5年 三木 善瑛

ぼくは、淡路島の淡路市に住んでいます。大阪湾とはりま灘に囲まれた、自然豊かな所です。ここでは、八毛、イカナゴ、タコ、アナゴ、タイ、タチウオ、ヒラメ、スズキ、サワラなどたくさん魚がとれます。ぼくがいつも見ている東浦の海では、イカナゴ漁や底引き網漁、のりの養殖が盛んですが、のりの色落ち被害が、心配されています。この被害を軽減するための取り組みの一つとして、ため池のいかぼり活動が行われています。これは、のりの生育には、森からの栄養分が必要と分かってきたから、農家の人と協力して、ため池にたまった栄養分を流すという活動です。海での問題は、海だけで解決できないということが分かりました。

海での取り組みは、海の底にたまっていくヘドロを分解するために、EM団子を海に投入することです。EM団子は、乳酸菌など色々な菌や米ぬか、淡路島のかわらに使う土などを混ぜた物です。くさいと聞いていたけれど、実際に丸めてみると、黒糖の甘いにおいがありました。EM菌が黒糖を好きだから、EM菌を増やすために、黒糖を入れるのだと漁師さんに聞きました。ぼくも甘い物が好きだから、EM菌も同じでおもしろいなと思いました。八月の学校登校日の時に、船に乗ってEM団子を海に投入しました。その時に、ただ今ままEM団子を投入するだけでは、海はきれいになっていかないと思いました。海は世界とつながっているからです。世界中の人々が海をきれいにしよう、魚が住みやすいかんきょうにしようという意識を持たなければならぬと思います。だからこのEM団子作りは、世界中に広めていくべきだとぼくは思います。

それから、イカナゴの漁か量が、減少しています。だから、来年、再来年も続けてイカナゴをとれるようにするために、漁か制限をしたり、休漁日を設けたりしています。それと、海水の温度が年々高くなってきていることも問題です。大阪湾で生態系の一番上にいるのは、八毛だと漁師さんに聞きました。八毛を食べる大きな魚がいなくて、八毛がイカナゴなどの小さな魚をえさにしているから、八毛がどんどん増えてきてしまつて、小さな魚が減ってきているのかなと思います。海水の温度が高くなると、生息できない魚が増え、海の中の生態系が変わるかもしれません。ぼくたちが、日々の生活で自然を大切にすることが大切だと思いませんか。ぼくたちが、日々の生活で自然を大切にすることが大切だと思いませんか。ぼくも、未来の海を守っていくお手伝いをしていきたいです。

丹波篠山黒大豆の 産地振興と販売力の強化

JA丹波ささやま

JA丹波ささやま（篠山市）は特産品である「丹波篠山黒大豆」の産地振興と販売力の強化に取り組んでいる。同JAでは農家の高齢化に伴う労働力不足への対策と担い手の確保が課題となっています。そこで、農家の労力負担を軽減するため、さや豆の選別ラインを導入し、集荷を始めました。また、収穫作業の機械化を進めており、組合員から大きな期待が寄せられています。担い手農家を対象に脱莢機導入助成を行うとともに、JA全農や篠山市と協力し、丹波篠山黒枝豆に適した仕様に改良を進め、収量増大を目指しています。

担い手を確保するため、JAではUターンやIターン、定年帰農者ら篠山で新たに農業を始める新規就農者を対象とした「U・Iクラブ丹波篠山黒豆スクール」を平成25年から開催しています。講師はTAC（地域農業の担い手に出向き、営農指導などを行うJA職員）がつとめ、6月の種まきから1月の黒豆の収穫まで毎月、座学と実習により基本的な栽培技術を指導しています。

さらに、「6次産業化」の取り組みとして、29年に冷凍枝豆を開発し、販売を始めました。旬の時期が10月上旬から約2週間と短い黒枝豆の風味を長期に渡って楽しむことができます。

JAでは、黒大豆の輸出にも力を入れており、28年から台湾でPR活動を続け、同国から視察を受け入れました。



収穫機による省力化を進めています

2018年度兵庫県生協連 共済部会・研修会報告

1. 日時：11月15日（木）15：30～17：00
2. 場所：兵庫県民会館3階「301」
3. 講演テーマ：
地域社会における防災活動について
4. 講師：

神戸市消防局中央消防署 消防防災課
消防防災課長 辻 正氏
神戸市中央消防署消防防災課 消防第1係
地域防災調整者 福井 智加氏

2018年度の同部会研修会テーマは「地域社会における防災活動について」。これは『「共済」という枠にこだわらず、ここ近年増加している「異常気象」等による、「防災・減災」の知識をもっと増やすことが大切、組合員にも注意喚起し、引いては共済推進にもつながるのではないか。』と考え設定しました。

参加者は、共済生協部会員11名とコープこうべ、コープ共済連、兵庫労働共済生協から各1名の計14名。

「消防の仕事」の概要説明後、災害被害の軽減には、「自助（自分の身を自分の努力によって守る）」「共助（地域や近隣の人が互いに助け合う）」「公助（国や都道府県等の行政、消防機関による救助・援助等）」の向上に努めることが大切との説明がありました。その後、実際の火災・災害の事例を紹介し、その対策や対処法、避難情報（避難準備、避難勧告、避難指示）の意味等、映像を用いて詳しく説明いただきました。これからの共済加入推進に役立つ有意義な研修になりました。





旬に想う

写真と文
遊方子

会津塗り菓子鉢

◆会津塗りの菓子鉢を戴いた。美しい漆塗りで菓子を入れるのが勿体ない感じだった。福井の鳥浜遺跡で漆を塗った櫛や土器が出土し話題になったが、縄文期の遺跡だから、ウルシの耐久性に富む事が実証されたようだ。漆の持つ美しい艶は独特のものである。ウルシは極端にホコリを嫌うため、上塗りはガラス戸で閉ざした密室で行い、塗って3時間程の生乾きの時に、竹べらで付着したホコリを丹念に取り除くという。薄暗い室内で密やかな細かな作業を続けるそうだが、そうした手間と時間をかけた作業から、名品が生まれ出る。特異体質の者は、この部屋に入るだけで漆にかぶれる。私は発疹するためダメである。

◆漆は東洋独特の塗料であり、その歴史は古く縄文以前、石器時代に既に使われていたという。古代人は矢じりを縛る藤蔓にウルシを染み込ませたり、竹を編んだ器や櫛・耳飾りに漆の樹液を塗ったらしい。ヌルシル（塗汁）とかウルシル（潤汁）が変化しウルシと呼ばれる。粘着性の濁った白色樹液は、空気に触れて酸化して黒褐色になる。一般に乾くというのは水分や溶剤が揮発して乾燥する事なのだが、漆は水分を取り込んで固化するから「漆が乾く」との表現は化学的には誤りである。乾燥に最適な加湿装置が必須で、乾くと朱・黄・藍・黒色に輝く。最古の漆工芸品は、法隆寺の『玉虫厨子』で飛鳥・白鳳時代に作られた。

◆『玉虫厨子』は金銅の透かし彫り金具の下に、タマムシの羽をびっしり敷いてあり、見事な装飾である。特に金緑色に輝く鞘翅の金赤色の縦条を揃えてあるのが素晴らしく、漆は接着剤の役目を果たしている。金箔は金に銀や銅を混ぜた合金を、薄く薄く打って展延したものである。その輝きは美しく、建造物や仏像が芸術作品として高められる。ここでも漆が接着剤に使われる。金箔は生活用品にも色々に使われる。飾りの美はワビ・サビの美とは別種の日本の美しさである。金粉を酒や茶に入れたりするが、腹中でも輝くのだろうか。

◆海外でジャパンといえば漆器を意味するが、蒔絵の美しさは今もオランダやドイツの宮殿を美しく飾っている。暮らしに必要な身近な漆器も多いが、収集された工芸品には素晴らしい逸品がある。神戸市立博物館で、蒔絵で肖像を描いた小さな壁掛けを展示していた。銅版画の線を忠実に蒔絵で表した黒漆製の美しいもので、楕円の中にヨーロッパの国王や王子・政治家が描かれている。18世紀頃に盛んに作られ輸出もされたという。美術館でしかお目にかかれないが、収集者の眼力の素晴らしさを感じる。漆がこうした美術品にも生きている。

大輪田塾だより



共済組合 福本参事の講義



海づくり協会 山村専務の講義

「漁業共済について」と 「ひょうご豊かな海づくり協会の 概要と栽培漁業」

12月18日（火）、大輪田塾が開講されました。

第1部の「漁業共済について」では、兵庫県漁業共済組合 福本好宏参事が講師を務め、漁業共済制度の概要から共済のてん補方法・契約割合や積立ぶらす仕組み等について詳しい説明を受けました。

第2部の「ひょうご豊かな海づくり協会の概要と栽培漁業」では、ひょうご豊かな海づくり協会 山村雅雄専務が同協会の成り立ちや事業概要説明のほか、栽培漁業の基本的な考え方や種苗生産の効果評価について話されました。

塾生は、農業共済との違いはあるのか、漁業共済への加入条件、新たな種苗種についてや放流種苗の効果等の質疑や意見が述べられ、活発な意見交換が行われました。

平成30年度 「ひょうご海の子作品展」 絵画部門 受賞者決定!!

9ページに掲載しています「ひょうご海の子作品展」の絵画部門で入選した皆さんをご紹介します。

【絵画部門】

(敬称略)

賞名	学校名	学年	氏名	題名
兵庫県知事賞	播磨町立蓮池小学校	5	佐伯 和紗	いわしの大漁
兵庫県教育長賞	明石市立朝霧小学校	2	朝霧 瑛斗	あかしのタコつぼ漁
JF兵庫漁連会長賞	加古川市立野口南小学校	5	島本 修作	サンマの水揚げ
	明石市立大久保小学校	1	秋野 來楓	げんきなうみのいきもの
JF兵庫女性連会長賞	明石市立二見小学校	1	原田 芽依	たことふたみのうみ
	南あわじ市立阿万小学校	5	村居璃苺香	魚が大漁
JFなぎさ信漁連理事長賞	明石市立錦が丘小学校	4	西海 陽介	いっぱい魚がとれたよ～!
	南あわじ市立倭文小学校	6	旦 実愛	おじいちゃんのお仕事
農林中央金庫大阪支店長賞	神戸市立小部東小学校	3	武藤 奏	楽しい海の中
	伊丹市立南小学校	6	畠山 陽人	大漁のまち

※紙面の都合上、佳作は掲載しておりません。

- JF兵庫漁連HPでも受賞作品を掲載予定。(http://www.seat-sakana.net/)

<兵庫県知事賞> いわしの大漁

播磨町立蓮池小学校 5年

佐伯 和紗さん



兵庫県教育長賞 あかしのタコつぼ漁

明石市立朝霧小学校 2年
朝霧 瑛斗さん

- 平成30年12月12～17日にかけて明石市立勤労福祉会館にて受賞作品の展示会を開催いたしました。

